

お米の消費に関する調査データ

～お米に対する意識の変化 編～

2026年3月

朝日大学マーケティング研究所

- 調査手法 : WEBリサーチ
- 調査期間 : 2025年12月15日(月) ~ 12月22日(月)
- 調査対象 : 首都圏在住の男女 20歳~69歳
- 有効回答 : 500名

【内訳】

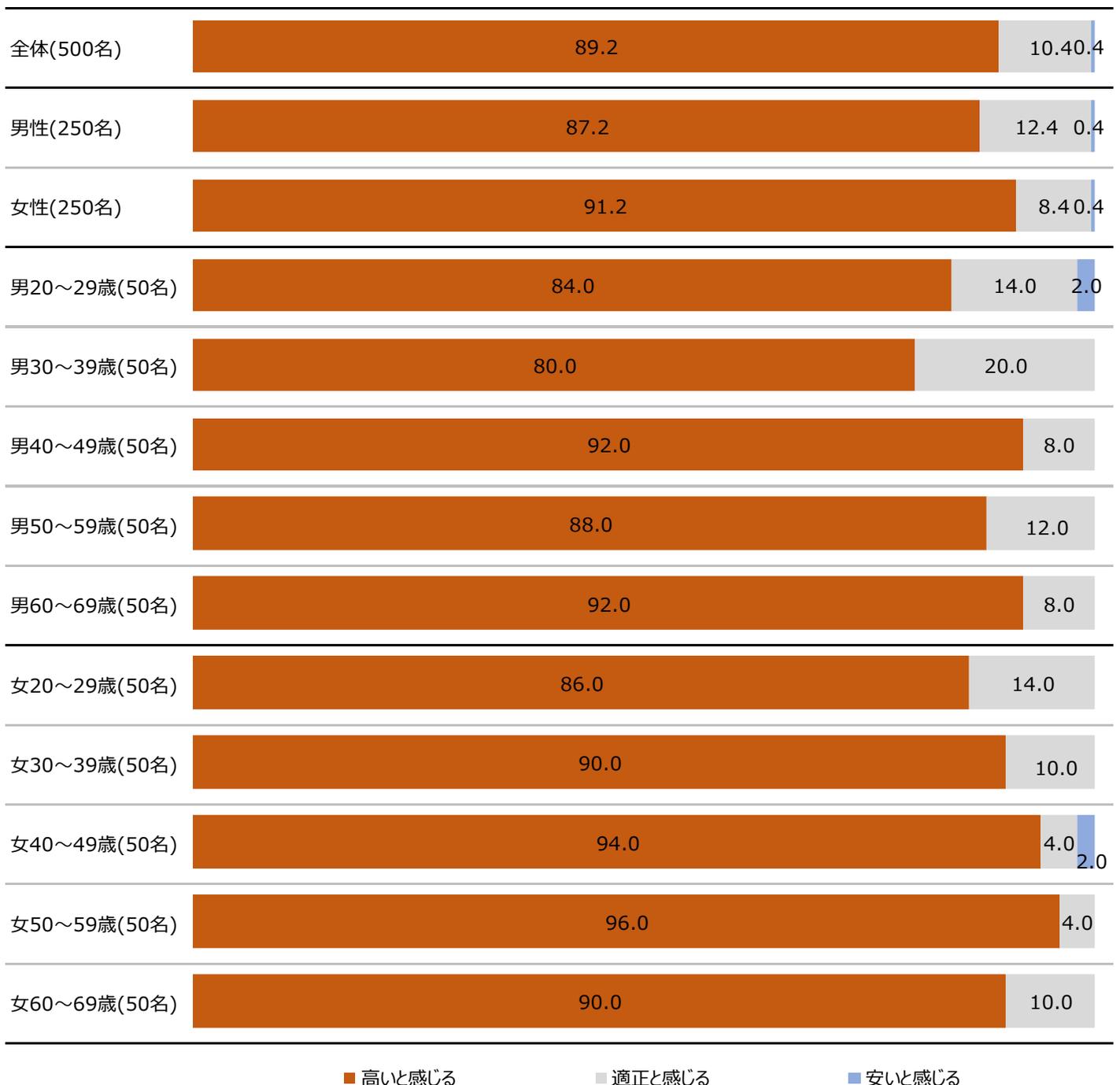
	男性	女性
20~29歳	50名	50名
30~39歳	50名	50名
40~49歳	50名	50名
50~59歳	50名	50名
60~69歳	50名	50名
合計	250名	250名

- 最近の米価格に対しては、「高いと感じる」(89.2%) が約9割と圧倒的に高く、「適正と感じる」は10.4%、「安いと感じる」は0.4%に留まった。
- 大半の人が最近の米価格を「高い」と感じている。
- 「高いと感じる」の割合を性別でみると、男性(87.2%) よりも女性(91.2%) のほうが4ポイント高かった。最近の米価格に対する許容度は、僅かに男性のほうが高かった。

Q6. 最近の米価について、あなたはどのように感じていますか。(SA)

N=全員

単位：%



■ 高いと感じる

■ 適正と感じる

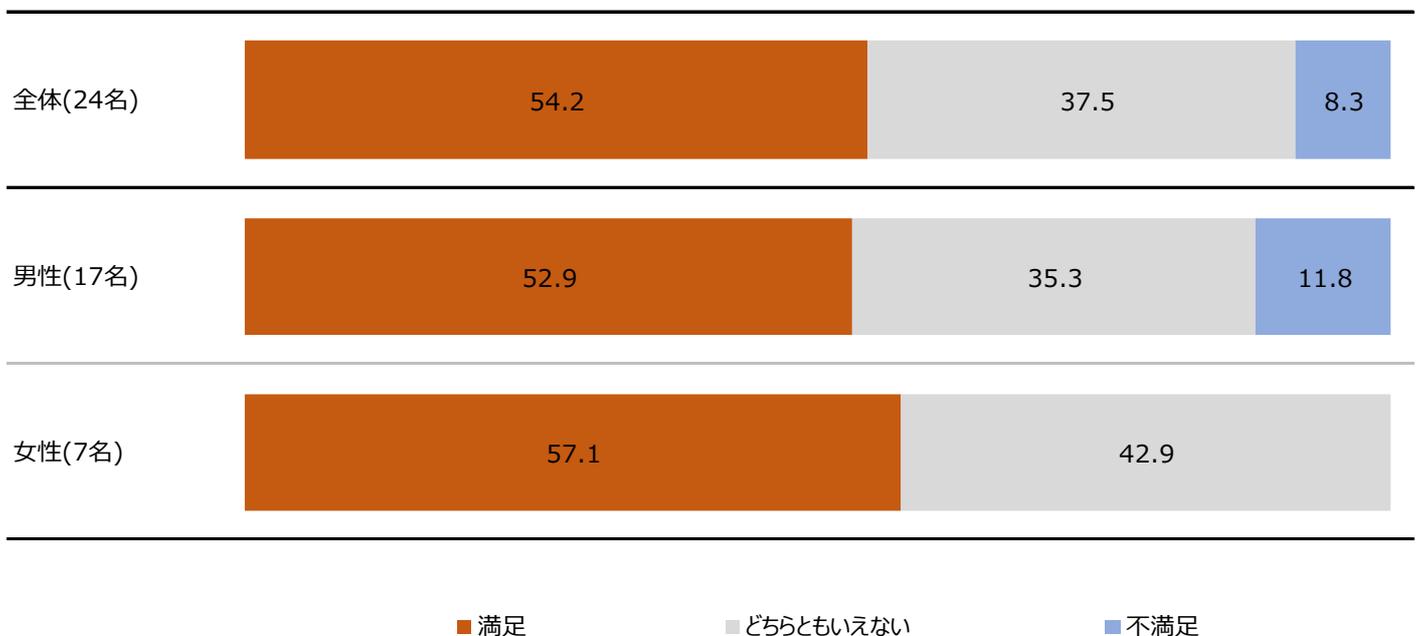
■ 安いと感じる

- 米価高騰を受けて、外国米を食べる頻度が増えた人における外国米の評価をみると、半数以上が「満足」（54.2%）であり、「どちらともいえない」が37.5%、「不満足」は8.3%に留まった。
- 外国米を食べる頻度が増えた人は24名とまだ少数だが、その9割以上が「満足」または「どちらともいえない」と評価した。
- 「不満足」はすべて男性からの評価であった。

Q10.外国米に対する評価を選んでください。(SA)

n=外国米の購入者（Q8=「外国米を食べる頻度が増えた」）

単位：%

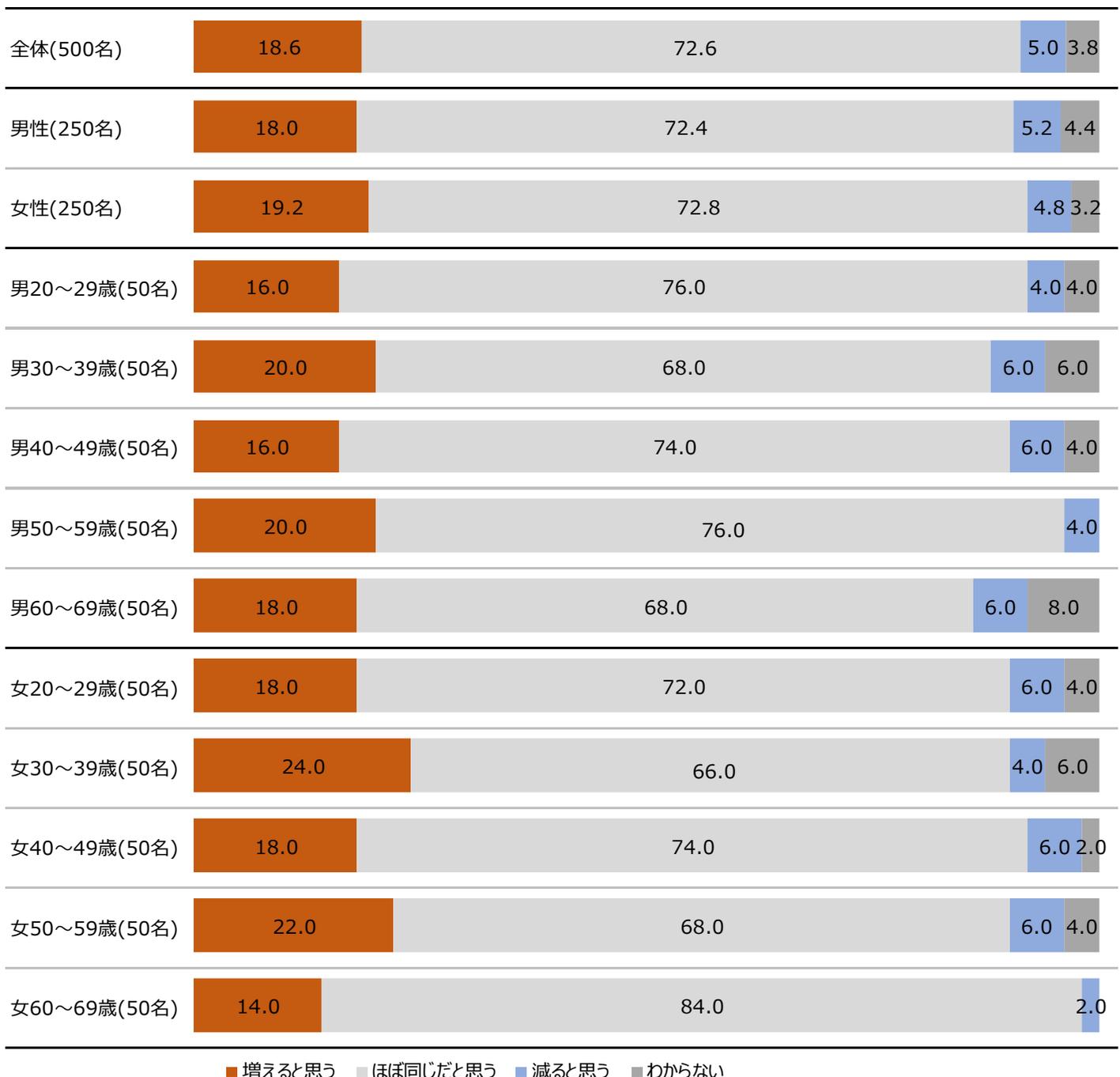


- 今後の米価格の低下局面における米食の意向については、現在と「ほぼ同じだと思う」が72.6%と多数を占めた。
- その他では「増えると思う」が18.6%、「減ると思う」が5.0%、「わからない」が3.8%であった。
- 変化の有無に関わらず、米価高騰後の食習慣を今後の米価低下局面においても継続したい人が多数を占めた。

Q12.この先、米価が下がった場合、ご家庭でお米を食べる機会は現在と比べて、どうなると思いますか。(SA)

N=全員

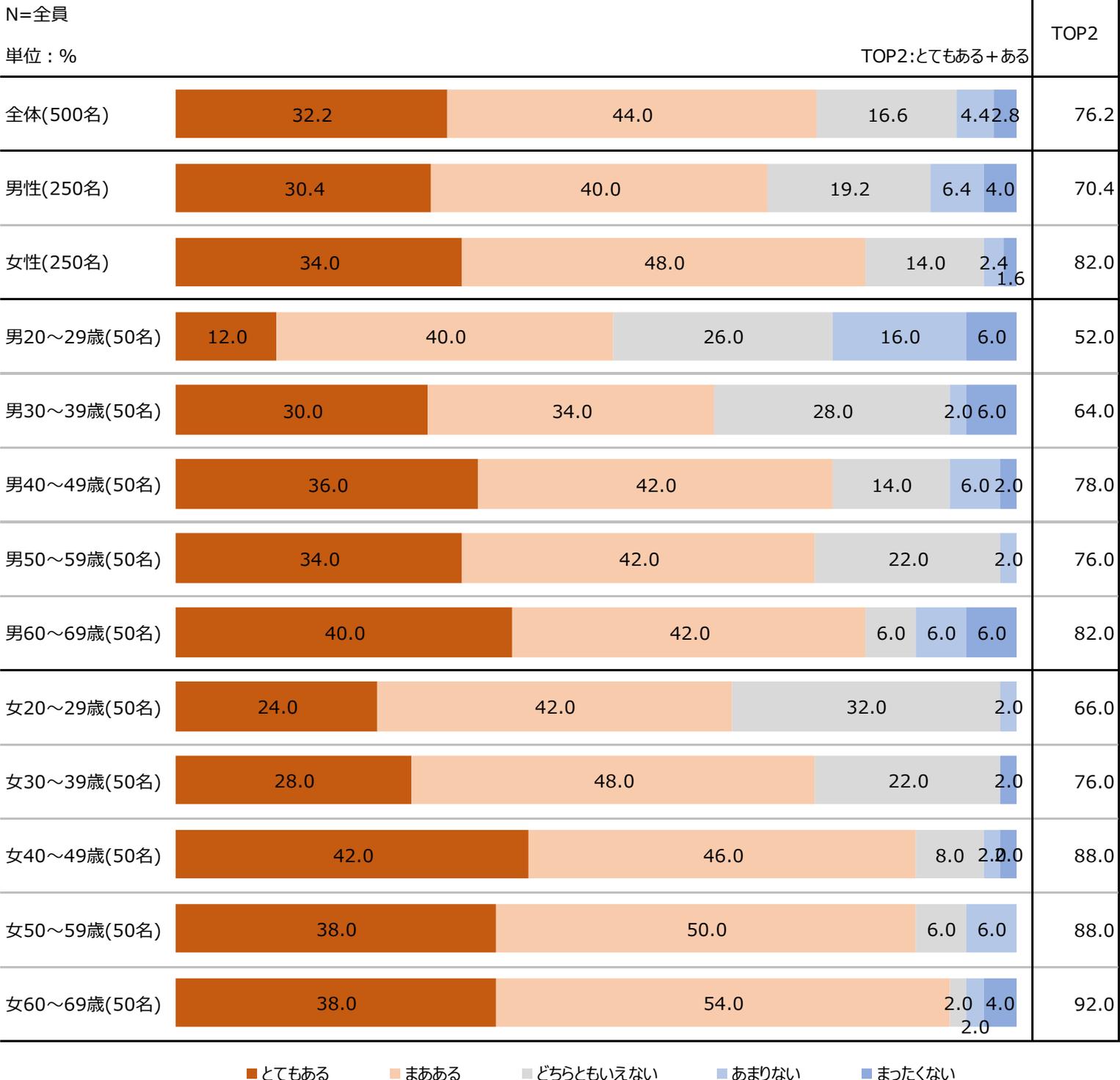
単位：%



■ 増えると思う ■ ほぼ同じだと思う ■ 減ると思う ■ わからない

- 現在の米情報に対する関心をTOP2（「とてもある」「まあある」の合計）でみると、全体では76.2%であった。
- TOP2を性別でみると、男性（70.4%）より女性（82.0%）のほうが11.6ポイント高かった。
- また年代別でみると男女とも40代以降で割合が高く、特に女性の40～49歳（88.0%）、50～59歳（88.0%）、60～69歳（92.0%）で高かった。

Q13.現在、お米に関するニュースや情報にどの程度の関心がありますか。(SA)



● 9割が最近の米価格は高いと評価

最近の米価格に対する意識としては、「高いと感じる」(89.2%)が約9割と圧倒的に高かった。「適正と感じる」(10.4%)は約1割、「安いと感じる」は0.4%とごく僅かに留まった。米価格は大半が「高いと感じる」レベルに達している。

性別や年代でみても大きな偏りはみられなかったが、「高いと感じる」の割合は男性(87.2%)より女性(91.2%)のほうが4ポイント高く、女性のなかでも50~59歳(96.0%)と40~49歳(94.0%)で特に高かった。主婦層を中心に、米価格の割高感が強く意識されている。

一方で20~29歳では、男性(84.0%)、女性(86.0%)とも8割台と相対的に低かった。

● 大半が外国米を許容

米価高騰を受けて、外国米を食べる頻度が増えた人は24名(全体の4.8%)と少数に留まったが、その外国米に対する評価は、「満足」が54.2%、「どちらともいえない」が37.5%であり、「不満足」は8.3%に留まった。

許容の評価が9割以上を占めており、明らかな不満は1割未満と少なかった。

外国米を食べる頻度が増えた人は24名と現在は少数に留まるが、このまま米価高騰が続けばシェアも必然的に高まる。伴って、これまでイメージだけで外国米を避けていた人が食べる機会も増えてくる。大半が許容している今回の評価を見る限り、実食によってイメージとは異なる評価を外国米に持つ人も少なくないと思われる。外国米も有力な選択肢となるであろう。

外国米の喫食が促進される現在の米価格高騰の市場環境は、日本産のお米に大きな脅威である。

● 今後の米価格低下局面でも7割以上が今の食習慣を継続したいと回答

今後の米価格の低下局面における米食の意向を質問したところ、「ほぼ同じだと思う」が72.6%であった。約7割が現状を継続したいとした。対して、現在よりも米食が「増えると思う」は18.6%であり、「減ると思う」は5.0%、「わからない」は3.8%に留まった。

米価格高騰後の食習慣を今後も継続したい人が多数を占めた。

外国米の喫食が増えたり(上記ご参照)、昼食で米以外の食材を選んだり(「価格高騰による食卓の変化 編」をご参照)、今回の調査においても食習慣の変化がいくつか散見されたが、多くの消費者はそこに戻ろうとは思っていない。

今後の価格低下を単に待つだけでなく、お米を主食として選ぶ価値や魅力が消費者に伝えないと国産のお米の需要は減ったままになってしまう可能性が高い。外国米や他の食材にその役割を奪われないように施策を講じていくことが、今後のためには必要である。

トピックスリサーチ

お米の消費に関する調査データ ～お米に対する意識の変化 編～

発行日 2026年 3月 31日

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所

〒501-0296

岐阜県瑞穂市穂積1851

TEL : 058-326-1173

お問い合わせ marketing@alice.asahi-u.ac.jp